

復興産業等拠点部会 第2回にむけた論点整理

平成 27 年 9 月 17 日作成

I. 双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づく事業計画（実施計画）に記載されている取組（町内での取組）

1. ふるさとの荒廃を防ぎ、ふるさとへの想いをつなぐ取組

町の取り組み	部会の意見
①一時帰宅の改善	<p>《年配の人から戻りはじめる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生きる目標を見つけることができなかった。 ● 中間貯蔵施設の問題のため、帰るのをやめてしまう人もいる。 ● すべてが流されたので、双葉にこだわりはなく、近くで風土が合うところがいい。 ● 戻りたい気持ちはあるが、現状は難しい。 ● 事故後の2代目、3代目の人が住もうと思ってもらいたい。 ● 年配の人は戻りたい人が多い。 <p>《段階的に人が戻れる体制をつくる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人が戻れる体制づくりをして、まず一人二人戻るようにする。そして人の輪を大きくする。 ● 最初は避難先地域に住みながら、双葉に通う二地域居住を始めてみる。 ● 知人が戻れば自分も戻る。 ● 避難が長期化すると分かった段階で、土地探しを始めた。避難者に自由が利かない。 ● もう少し復興のスピードを加速して欲しい。そうでなければ子供へのバトンタッチが難しい。一日も早い復興を願っている。

②墓参への支援	<p>《無縁墓の扱いをどうするか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 双葉から引っ越していった人のお墓をどうするのか。
③インフラ復旧のあり方を検討	

2. ふるさとへの帰還と双葉町の再興に向けた取組

町の取り組み	部会の意見
④除染（放射線量の低減）	<p>《除染を早めて安心して住めるようにする》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 除染を早くして。戻りたい人を早く戻す。 ● 安心して仕事ができるように、除染を早くしてほしい。 ● 廃炉を早くしてほしい。 ● できることを早くやる。除染、中間貯蔵など。これは開拓だ。 ● 「除染を早くし戻れる環境整備が必要」 → 「誰かが戻れば皆戻る」 → 「インフラ整備」といういい流れを作ってほしい。 ● 何がなんでも、双葉町だけでなく汚染された地域全部を安心して住めるような環境に取り戻して欲しい。それからいろいろなものが進んでいくと思う。
⑤生活関連サービス業の再開	<p>《事業を再開できる環境を整備する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 商工会で事業の再開を進めている。 ● 長期ビジョンで商売できるような環境整備を行ってほしい。 ● 早く、双葉に帰れるような環境づくりをしてほしい。 ● （長期ビジョンに）いろいろなゾーンがある。商売ができるところもあるので、早く環境づくりをして欲しい。商店街も考えていくので、町も考えてほしい。

	<p>《働く人を集める》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業を興して社員を募集しても、人材が集まらない。 ● 中間貯蔵施設があるところで働きたい人が出てくるか。 <p>《新しい生活支援サービスをつくる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい場所で、できるものとできないものがある。 ● 食品ではないものでビジネスを考える。 ● 宿舎の人を対象にしたコンビニエンスストアやお弁当屋。 ● 単価の高い商品を低コストで生産する施設。 ● 事務所は置きたい。 ● 行政からの資金支援が必要である。
<p>⑥津波被災地域のインフラ復旧</p>	<p>《交通混雑を緩和する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 双葉へ通うことが難しい。 ● 復旧が進むと高速道路もインターチェンジが混雑する恐れがある。
<p>⑦新たな街の整備</p>	

II. 双葉町復興まちづくり長期ビジョンに記載されている取組内容

■復興着手期（5～10年後）における町内での取組

町の取り組み	部会の意見
1. インフラの復旧・整備	
2. 復興産業拠点の整備（産業団地の造成等）	<p>《次世代のために復興産業拠点を考える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中間貯蔵施設や廃炉が進む風景は、もはやふるさとではなくなる。これを子供たちにどう伝えられるか。 ● 復興にどれくらい時間がかかるかわからない。30年から40年かかるとしたら、自分たちの世代では復興はできない。 ● 4%という狭い地域で、産業復興拠点にできるのか。 ● 産業がないと人が集まらない。人が集まってこそ復興に繋がる。 <p>《産業廃棄物の再処理や研究施設を誘致する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人は入れないが場所があるので、産業廃棄物の再処理工場など、産業的にいらぬものを受け入れる。 ● 資材置き場になるのではないか。 ● 国が受入先の確保で困っている廃棄物を受け入れれば、放射性廃棄物への見方も変わるのではないか。 ● 研究施設を誘致する。 ● 汚染水をろ過するフィルター。
3. 復興産業拠点の発展・拡張	
4. 再生可能エネルギー拠点の形成	<p>《再生可能エネルギー拠点の形成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー産業や新エネルギー産業の実験場とする。

5. 農業再生モデル事業の実施	<p>《風評被害の影響を受けない農業に取り組む》</p> <ul style="list-style-type: none">● 福島産というだけで買ってもらえない風評被害の現実がある。● 汚染した土壌で農作物を生産した場合にどうなるかテストする場とする。● 農業は技術的に可能だが、農産物を購入してもらえるだろうか。● 復興拠点での農業の可能性は短期的にはないが、長期的にはあるかも。● （作物を）普通に作って販売するのは難しい。花など観賞用ならいいのではないか。双葉町いっぱい花を植えたりしたらどうか。
-----------------	---

Ⅲ. 双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づく事業計画（実施計画）に記載されている取組内容（町外での取組）

1. 町民一人一人の生活再建の実現に向けた取組

町の取り組み	部会の意見
①事業開催支援・雇用の確保	<p>《風評被害で消費者が福島産を買わない》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分は県内産の食品を買うようになったが、県外の人はまだ福島産を買わない。 ● 県外では、福島のアンテナショップで応援する人が買ってくれるが、普通のスーパーでは買わない。 <p>《風評被害をなくす情報発信と教育に取り組む》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福島情報は県内ではたくさん流れているが、県外では流れていない。 ● 放射線に対する思い（感覚）が昔のままで、次の段階へ進んでいない。 ● 福島出身の女性を嫁にもらうのはどうかという偏見がある。 ● すべての国民に風評被害をなくす教育が必要である。 ● 全国に放射線の状況をもっと流してほしい。 ● 「安心」とはなにかをしっかりと教育して欲しい。
②「双葉町町外拠点」における事業再開支援・雇用の確保	<p>《共同店舗は建物や資金の支援が必要である》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町外に共同店舗があればよいが、やりくりできるか疑問が残る。 ● 復興住宅に入り、共同店舗をやるのはお金の問題が大きいので、建物を整備してもらい、賃料も補助してほしい。 ● 補助金がないのでは？ ● 当分は世帯人口が少ないので商売（スーパー）が成り立つか不安だ。 ● 開拓の精神で、新しいチャレンジになる。 <p>《避難者が働く喜びを得られる仕事をつくる》</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">● 避難者に働く喜びを知ってもらいたい。● 避難者の精神的なケアとして、年配の方でもできる手仕事をし、ネット販売を行ったり、草むしりなど、働く意欲を持たせて、給料をもらう楽しみを与えるようなりハビリのような仕事を用意してはどうか。● 町にお願いしたいのは、避難している人の精神的な手当て。特に働く喜びを皆に与えて欲しい。 |
|--|--|